

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100133		
法人名	有限会社 あかり企画		
事業所名	グループホームあかり		
所在地	岡山市北区富田14		
自己評価作成日	27年1月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/33/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JivgoVoCd=3390100133-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成27年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の生活の中で自然に筋力の維持、向上を図り、出来るだけ自分で歩け食事を摂ることが出来るように努めている。
あかり入居者の皆さん、家族の方々、またあかりで働く全ての人たちがあかりで良かったと思えるホーム作りを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営者の自宅跡に、外観を一軒家のように建て、そのまま地域との繋がりが継続されている。当り前の近所付き合いができ、近所の花屋さんからはお花が届き、近隣の人達が野菜や花を持って来てくれ、地域の理解と支援が得られた事業所である。美容のボランティア、傾聴ボランティア等、地域の人達の支援も継続している。利用者にとっても、馴染みになった人達との関係継続は、良い効果をもたらし、楽しみな交流となっている。職員の年齢層が幅広く、各世代の良い所を活かし、足りない所を補い合って、助け合いながら、「明るい毎日、まあい笑顔」という理念に沿った支援に取り組んでいる。長く勤務している職員が多く、落ち着いた支援に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	明るい毎日、まあい笑顔を理念とし全職員に、徹底できるよう努力している。	玄関と居間に額に入れて掲示しており、常に目にすることができる。自分の家のように、穏やかに楽しく暮らすことができる様に、理念に沿った支援の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	オーナーが、地元住民である為地域とは、良い関係である。散歩時の挨拶、野菜や花をいただいたり、よい交流を続けている。	町内会の運動会参加や富田神社へのお詣り、散歩に出れば近所の方が声を掛けてくれたりと、地域の一員としての付き合いができています。花や野菜を届けてくれたり、継続して訪れてくれる美容や傾聴のボランティア等地域の人との繋がりもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方や近所の人には、いつも認知症の話をし、又電話等にて相談を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で町内の行事やボランティアの話も出て、祭の参加などのサービスを取り入れている。	運営推進会議は町内会副会長・民生委員・愛育委員・老人会・消防団員・包括支援センター職員等が参加し開催している。事業所の実情を理解してもらおうと共に、認知症や介護保険の話をする等、地域で必要とされる役割も果たしている。	様々な地域の方の参加があり、話し合いが持たれているが、開催回数を増やす取り組みに期待したい。家族の参加も促し、継続的に開催することで、さらなるサービスの向上を目指して頂きたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今のところあまり連絡を取り合うことがないが、分からないことなどは連絡している。	地域包括支援センター職員が、運営推進会議に出席してくれ、情報を共有している。介護保険の更新や変更時に出向き、相談をしたり、助言をもらうなど、連携を図るように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない方針は職員全員が徹底している。	突然の立ち上がりを防ぐ車椅子のベルト使用の方がおられる。家族に説明し理解を得ながら、職員間で、解除に向けた話し合いを続けている。レビー小体型認知症の資料を作り、病状理解をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待だけは絶対に許さないと職員会でもいつも話している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これからの課題と思っている。努力していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っているつもりである。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱も設けているが、あまり意見はなく、事ある事に何かあれば言って下さいと投げかけている。	家族は遠方であっても、月に一度は利用料を持って訪れてきている。訪問時に様子を話し、意見や要望を聴き取るようにしている。「グループホームだより」の発行、メールやファックスで写真や手紙を送る等、信頼関係を築くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会時には意見交換を行っている。	職員間の仲が良く、毎日の申し送り時や、職員会議等でよく話し合われている。創立以来、ホーム長の下、連携が図られ、職員の気付きから、洗濯物セットの変更など、改善されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の生活に沿った勤務体制を取り入れ、働きやすい職場にしたいと努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	順番に外部の研修参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いくつかのグループホーム管理者と交流を持っており色々と意見交換を行っている。また、今年度は、他ホームとの交換職員研修を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居され、一日も早くあかりでの生活に慣れて頂くよう全職員が心して接している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、入所後、家族とはよく話し合うよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接に力を入れ入居後のプランに活かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム全体をひとつの家族として考えている。出来ることはお互い助け合って毎日を過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所しても家族との関係が薄れないよう気をつけている。面会、外泊、正月帰省などをお願いしており、家族の協力も得られている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話、手紙の交換、面会に来ていただけるよう配慮している。	友人の来訪後は、お礼や次回の来訪をお願いする手紙を書いて、関係継続の支援をしている。馴染みの美容院にお連れすることもある。家族の協力で馴染みの店での買い物や食事を楽しまれる方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事や団欒時において、利用者同士が楽しく出来るよう席の場所や職員が仲に入るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も出来るだけ関係を続けている。特養への面会、病院への見舞い等行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いを大事にしている。常に認知症について本を読み勉強をしている。	本人の気持ちを受け止め、否定しない対応を心がけている。帰宅願望の強い方にも、電話をかけて家族と話す等、様々な方法を考えて対応している。思いを汲み取りながら穏やかな生活を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の面会時などにはお話を聞きし、生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	血圧、体温、脈、毎日計り、表情や身体の動きなど常に観察して異常のサインを見逃さないよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一ヶ月に一回の職員会議で話し合っている。	6か月毎に見直しをしている。健康で生きがいを持って暮らしていける様に、職員間で話し合われている。日誌や職員の気付きを参考に、作成している。変化がある時は、その都度作り直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間の連絡を密にし、必要なことはノートに残し再度確認する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の入院、用事等で病院に受診できない時は職員が付き添い受診する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア等の回数を多くし、地域の人々との交流を深めて顔馴染みになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各人のかかりつけ医に受診し、医療機関とは連絡を取り合っている。	かかりつけ医の受診は家族にお願いしているが、提携医院の受診には職員が付き添い、医療情報の共有を図っている。訪問診療も月2回あり、希望する医療が受けられる様に、複数の医療機関と連携の体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は現在はいないが、不明、不安なことはセカンドオピニオンへ電話し相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診、入院時には医療機関への情報提供を行っており、ドクターとの連絡も密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や変化の見られるときにはその都度家族に説明を行っている。	24時間対応の訪問診療の医師の協力があり、状況に応じて家族と話し合いの機会を持ち、施設の申し込みもしてもらっている。本人や家族の意向に添い、家族にも泊り込んでもらいながら、心のこもった看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が順に講習に行けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2～3か月に一回は職員と利用者で避難訓練を行うよう努力している。今年度は、スプリンクラーの設置する。	消防団との合同訓練も年1回行い、適切なアドバイスももらっている。職員には、入社時に個別の指導をしている。部屋から避難した時は、表札を外す、鍵をかける等緊急時の対応を決めている。	地域住民とのつながりが強い事業所なので、避難訓練の参加をお願いして頂きたい。避難後の見守り等、役割を明確にした体制作りを進めて頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の方を傷付けない言葉掛け等いつも話し合っている。	汚れ物はそっと片付ける等、本人のプライドを守る対応がなされている。ドアの外側にレースのカーテンが引かれ、開放時のプライバシーを守る工夫もしている。夜間施錠して休む方もおられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーション時や個別の会話時には希望や思いを引き出すよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ほぼ全員がその人の生活ペースを持っておられそのような毎日を過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んだり合わない服を直したり気を配り、清潔な衣服に気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食材の下ごしらえをしたり片付けを行っている。	季節の食材を採り入れた家庭的な料理で、誕生日やひな祭りなど行事の食事も楽しんでいる。精米したてのご飯も美味しく、残食はない。職員と一緒に同じテーブルを囲み、一人ひとりのペースで、食事を楽しまれていると感じた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各人に合わせ量や食べやすい工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けにて入れ歯洗浄の介助を行っている。又、訪問歯科も取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各人の排泄パターンを知り声掛けにて介助を行っている。	気持ち良くトイレで排泄できるよう、早めの誘導を心がけている。パットなしの布パンツで過ごされる方も多い。夜間もトイレ誘導、ポータブルトイレ使用、パット類の検討など、一人ひとりに合わせて自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や食事の工夫、運動など予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大体日時、曜日は決めているが、その中で出来るだけ楽しんで入ってもらおうよう努めている。	月・水・金曜日の午後から入浴している。入浴拒否の方には、時間や日にちを変える等、無理なく入浴できるように対応している。上手に誘導しているが、それでも拒否される方には清拭することもある。職員と一対一でゆっくり入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちの良い寝具やご本人の希望に沿った工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用は理解しており変化があれば医者に伝えられる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日中の過ごし方はそれぞれ楽しめるよう毎日工夫をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外への希望はあまりないが、希望があれば出来るだけ叶えるようにしている。(美容院、散歩、外食、買い物など)	初詣、お花見、菊花展、紅葉狩りなど季節を感じてもらえる様に外出をしている。家族から聞き取った嗜好をもとに外食に出かける個別の支援もしている。傾聴ボランティアと外出することもあり、希望に添った外出ができる様に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	何人かはお金を持っておられ、買い物時には自分の財布から出して使っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	荷物等届いたりすると、その相手に電話して話して頂いたり、手紙が出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆さんの集まるリビングには季節の品や花がいつもあり、居心地を良くするよう努めている。	台所脇に畳コーナーがあり、自宅の様な休息の場所となっている。季節に応じた作品や大好きな犬の貼り絵等が飾られ、家族や職員との楽しい会話の糸口となり、居心地よく過ごせる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一、二階のリビングには各々ソファがあり、日当たりの良い場所があり会話されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ自宅の荷物を持ってきてもらうようにしている。その人らしい部屋が作られている。	ベッドが備え付けてあり、タンスや洋服掛けなど好みの家具を持ち込み、自分の部屋らしく整えられている。お茶の用意をしている方もおられ、くつろいで過ごす事ができる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ないところは職員と共に行き、その都度会話しながら入居者のペースに合わせて進めている。		